

J-20

星景の方舟

豊穰と再生、エジプト神話に基づく宇宙軸

Starscape Ark

Fertility and regeneration, the cosmic axis based on Egyptian mythology

佐藤信治¹, ○三橋一貴²Shinji Sato¹, *Kazuki Mitsuhashi²

Since the Industrial Revolution, the waves that controlled nature and sought an efficiency-oriented economic society have covered the world. It seems that the identity of my country has been diluted and the world has become uniform in parallel. It exists as a part of the earth, taking nature as gods, and the mystery that is sometimes seen through the gaps is seen as the truth. Ancient Egypt has built advanced civilization by capturing the Egyptian world in three dimensions. The floods brought by the Nile taught the stars and the Milky Way flowing high in the sky overlapped the Nile. The iconic pyramid is planned to be the same as the Orion that controls regeneration.

1. はじめに

産業革命以降, 自然をコントロールし, 効率重視の経済社会を謳う波は世界を覆い尽くした. 自国のアイデンティティは希薄化し世界は均一化してしまったように思える. 一方, 自然を神々と捉え敬い, 信仰してきた古代はテクノロジーの進歩により創造される現代とはまたスケールの違う宇宙的神秘性に満ち溢れた力を持っていたのではないだろうか.

古代文明が興ったエジプトは神秘性やロマンをかもし出し未だ多くの人々を惹きつける. その歴史や文化は上流部に建設された世界最大のダムによりエジプトとナイルの繋がりとともに断絶されてしまっている. 氾濫がもたらす肥沃な土壌はダムが受け止め生態系の破壊, 畑の塩害, 風土病の蔓延と代償が降りかかってきている. これらを踏まえナイルが氾濫し恵みを与えていた姿を古代の思想を用い解決し, 共生できる新しいダム, 方舟を提案する.

2. 計画背景

2-1. エジプトとナイル川

「エジプトはナイルの賜物」と言われるように毎年決まった時期に起こるナイルの氾濫は上流より肥沃な土壌を運び生命を与えた. 太陽と砂漠の国には雨がほとんど降らず, 水のほとんどをナイル川に依存し,

幹線道路としての役割も持ち古代エジプトの発展になくてはならない存在であった.

2-2. 宇宙建築

古代エジプトは太陽暦を確定することと相まって, 毎年定期的に洪水期があることを知った.

7月の中頃, 東の空に昇るシリウスはナイルの氾濫を教え, 規則正しい動きをする太陽や月, 星座の位置を読みとりナイル川と共に生活してきた. これらはエジプト宗教の輪廻思想に深く影響を与えた. また, 宇宙の神秘性は建築を作るのにも利用される.

世界で最も名の知れたピラミッドはナイル川を天の川と見立てた時オリオンと同位置に建設されたと言われており, 星が発する光度とピラミッドの高さが比例していることから古代エジプトではエジプトと宇宙を重ねて考えていたと考えられる.

2-3. 20世紀最大のダム建設による環境影響

20世紀最大の土木事業, アスワンハイダムはナイル川の氾濫の防止, 不足しがちな農業用水の灌漑供給及び砂漠の緑地化, 水力発電を目的とし 1970年に作られた. しかし, アスワンハイダムは20世紀最大の失敗とも言われている.

当時, 環境アセスメントを考慮することなく作られた世界最大のダムは環境に与える影響も凄まじく, 大

1: 日大理工・専任講師・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST, Nihon-U.

2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering, CST, Nihon-U.

規模な建設は周囲に住む生物を死滅させ遺跡は水に沈んだ。また、水をせきとめるダムは肥沃な土壌さえもせきとめ、エジプト全土に風土病、畑の塩害、生態系の破壊と死の川へと変えてしまった。これはエジプトに対して神がもたらした天罰のように感じる。

2-4. 内航海交通の未発達

乗り物も船から車へと代わり人口増加も伴い交通渋滞、大気汚染はエジプトの深刻の環境問題となっている。これらを踏まえ、環境に優しいナイルの内航海交通の発展が望まれています。現状利用率は2%となっており極めて低く改善が求められている。

3. 敷地

3-1. 計画敷地

ナイル周辺には増水により農耕や灌漑が可能になる氾濫原が存在しそこだけが居住区として栄えてきた。つまりこれらの古代に栄えた王国は氾濫が起こる低地にあったとされている。主要な宗教都市でもあり、それぞれ固有の神を祀る聖地として、古代の人々は舟を使い巡礼した。地図を見るとわかるように古代の王国と現在の都市はおおよそリンクしておりこれらの王国跡地に方舟を計画する。



Figure.1 Egypt map

3-2. メンフィス

首都カイロより南に 20 km離れたメンフィスは古代エジプトにおいて最初に生まれた王国である。ナイル川河口付近のデルタ地帯という戦略的要衝に形成された都市であり、各種の社会生活の拠点として栄えていた。メンフィスの主たる港であるペル・ネフェルには数多くの工房、工場、倉庫が存在し、王国全体に食料や商品を流通させていた。その黄金時代の間、メン

フィスは商業、貿易、宗教の地域的中心地として繁栄した。しかし現在は度重なる戦やカイロの建設などにより遺跡は失われ畑が続くばかりである。

4. 基本計画

ナイルの氾濫との共生する計画の要素として(1)水門機能(2)港機能(3)防災機能(4)宇宙建築の4つの機能と一体的に計画する。

1) **水門機能:** 氾濫時には肥沃な土壌を流し込み畑を潤し干水期には備蓄した水を水路を通して供給する計画を行う。

2) **港機能:** 現在内航海交通の利用率は2%と極めて低く、内航海インフラの整備が必須である。そこで多くの船が停泊でき休息、観光が行える港を計画する。過去の王国の跡地に建設される方舟はナイル川のネットワークを繋ぐ拠点施設としての役割を持つ。

3) **防災機能:** 恵みあるナイルの氾濫は時には人智の超えた災害となる場合も想定される。それらを食い止めるのではなく共に生きていくことが今回の目的である。緩やかに増水するナイルの特徴に合わせ人々が生活出来るスケールで設計を行う。

4) **宇宙建築:** ナイルを軸にエジプトの宇宙観から生まれたエジプト神話を読み解き宇宙建築を設計する。これらはエジプトの新たなピラミッドとなり方舟が発する宇宙軸はナイルにネットワークを構築し、小さな人々の明かりと交わりながらゆらゆらと星々の川のように輝き始める。

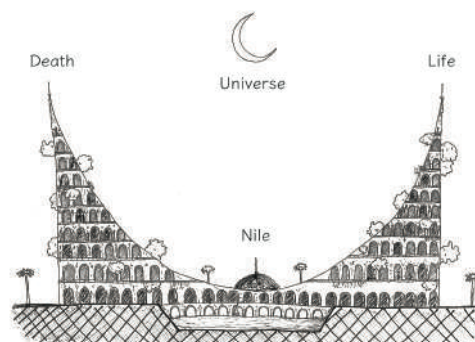


Figure.2 image perspective

5. 参考文献

- [1]世界の河川から見たナイル川
- [2]エジプト国海運・内水運総合輸送計画調査報告書

1:日大理工・専任講師・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering ,CST ,Nihon-U.

2:日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering ,CST ,Nihon-U.